

〈共同研究〉

「アフリカ潜在力」概念の批判的検証

マダムと弟子たち

—— ガーナ南部のカカオ農村における仕立屋についての予備的考察 ——

浜 田 明 範*

本稿は、2019年8月にガーナ南部のカカオ農村で実施した仕立屋の現地調査についての速報である。速報という文章の性質上、先行研究の検討や理論的な含意に関する説明にはあまり立ち入らず、当該地域の仕立屋を取り巻く状況について概括的に描出することを目的とする。

1. 調査地の概要と調査の背景

本稿の主たる調査地は、ガーナ共和国イースタン州クワエビビリム郡のプランカシ町である。プランカシ町は首都アクラから直線距離で北西に約70kmの場所にあり、道路の状況にもよるが、アクラからはミニバスを乗り継いで約3時間半、郡庁のあるカデ（Kade）からは30分程度の道則にある。行政区域としては、イースタン州（Eastern region）クワエビビリム郡（Kwaebibirime district）プランカシ副郡（Pramkese sub-district）に属している。

プランカシ副郡の名前の由来にもなっているプランカシ町は1.5km四方の範囲に収まる程度の小さな町である。2010年に行われたセンサスに基づいてガーナ・ヘルス・サービスが行った推計によると、2013年時点のプランカシ町の人口は5,327人となっている。農村部に位置し、持続的に働き手が都市部へ流出しているプランカシの18歳以上の働き手は多く見積もっても2,000～2,500

人と推計できる。

プランカシ町は、筆者が2005年より断続的に総計3年強にわたって現地に滞在しながら調査を実施してきた町であり、足掛け14年に渡る調査の過程で知り合った多くの友人が暮らしている。他方で、プランカシ町で知り合った人々の少ない割合が、町を後にし、アクラ（Accra）やアサンテ王国の古都クマシ（Kumasi）、イースタン州の州都コフォリデュヤ（Koforidua）といった大都市に出稼ぎに行ったり、移住したりしている。厳密な量的データは無いものの、筆者の感覚ではこの傾向は近年より強くなってきており、また、プランカシ町で暮らす人々の多くが、同町が徐々に寂れていっているという見解に同意する（浜田2019a）。その理由としてもっとも頻繁に挙げられるのが、プランカシ町には「仕事が無い」というものである。実際、プランカシ町でかつて栄えた産業のいくつかは、現在は完全に下火になっている。1950年代から60年代にかけて盛んだったダイヤモンドの採掘や、2000年代に多くの雇用を生み出していた木材の伐採がそれにあたる。その結果、2019年現在のプランカシ町の主たる産業は、カカオ、アブラヤシ、オレンジの栽培を中心とする農業であり、左官や木工、仕立や髪結い、それに小商売といった農家を支えるサービス業が細々と行われている。看護師や教師といった公務員も存在しているが、特に看護師たちはプランカシ町近郊のより大きな都市で買い物を済ませることが多い。住民の一員というよりは、元々の住民たちからや

* 関西大学社会学部 准教授

や距離をとった存在だと自認することが多く、他の住民からもそのように考えられている。

そのようななかで、例外的に多数の店舗を構えているのが仕立屋と髪結いである。それらはともに、主に女性が行う女性のためのサービスであり、また、徒弟制を通じて技術が継承されるという特徴を持っている。そのため、これらの産業に注目することは、ガーナ南部における女性の仕事、生活と人生、村落の経済といった課題を検討するうえで格好の題材を提供してくれる。本稿が仕立屋に注目する理由はここにある。

2. 仕立屋の仕事

仕立屋の仕事は、顧客が持ち込む布を裁断・縫製し、服に仕立て上げることである。仕立屋が既製服を作成すること、つまり、自分で布を選んで予め服を作って販売することはそれほど一般的ではない。顧客が布を持ち込むと服の形（スタイル）を顧客と相談し、採寸を行い、オーダーメードで服を作成する。女性服の場合は、カバニスリット（*kaba ni slit*）¹⁾と呼ばれる上下ツーピースの洋服がオーダーされることが一般的である²⁾。一口にツーピースと言っても、スカートの形や丈、胸元の形などは多様であり、顧客はカレンダーと呼ばれるポスターや、近年盛んに発行されるようになっていくファッション雑誌³⁾を見ながら、スタイルを決め、発注する。

顧客が持ち込む布は、主に、ントマ（*ntoma*）、ケンテ、タイ・アンド・ダイ、喪服用の赤か黒の布の4つに大別することができる。このうち、最も頻繁に用いられるのがントマと呼ばれるプリント布である。2019年現在、流通しているントマの多くはハイターゲットという中国のメーカーのものである。アフリカのプリント布と言えば、キッシュデザインと呼ばれるハサミやアイロンといった日用品の柄がプリントされているものがよく知られているが、ガーナ南部では唐草模様のような古典的な柄の方が一般的である。この古典的な柄が、ジャワ更紗に由来することは、国立民族学博物館の展示等を通してよく知られている（国立民族学博物館 2006）。

ガーナ国内でプリント布を生産しているメーカーはいくつかあるが、ハイターゲットとの価格競争もあり、市場で見かけることは少ない。そのなかでは、1966年に創業したGTP（Ghana Textile Printing company）の流れを汲み、いまはオランダのプリント布メーカーフリスコ（Vlisco）の傘下にある、1985年創業のウディン（Woodin）というブランドが健闘している。ウディンは、ハイターゲットと差別化するために、古典柄ではなく新しい柄をデザインしたり、厚手の布を使ったり、「メタリック」という光沢のあるプリントを一部使用するシリーズを展開している。

ントマの古典柄には独特の名前が付けられている。フィリシア（Phylisia）やアマ・セワ（Ama Sewa）といった女性の名前がつけられているものや、アフエニエパ・エンカサ（*Ahene pa nkasa* 良いビーズは音を立てない＝沈黙は金）、デュヤクロ・ジ・エンフラマ・アエブ（*Dua kuro gyenframa a ebu* 孤独な木は風を受けると折れてしまう＝団結は力）というように、ガーナ南部で広く話されているチュイ語の諺からとったものがある。

ガーナ南部では、かつてより、布の柄に人や諺、出来事の名前がつけられてきた⁴⁾。ントマよりも高級な布として用いられるケンテという織布があるが、このケンテには織り方によって現れる柄に様々な名前がつけられていたという。植民地期にガーナ南部で調査をしていた人類学者のラトレイが編集した1927年に出版された民族誌には、絹製と綿製のケンテの柄につけられた実に171にのぼる名前とその意味が掲載されている（Ratteray 1927）。ただし、ケンテは結婚衣装などを除いて用いられる機会が少なく、今となってはその柄の名前を覚えている者は多くない。結婚衣装としても、ケンテに代わってポリッシュド・コットンと呼ばれる艶のある生地とレースを組み合わせた衣装が好まれるようになってきている。

ントマともケンテとも異なる種類の布として、現地で「タイ・アンド・ダイ」と呼ばれている布もある。英語でタイ・アンド・ダイと言えば、通常、絞り染めのことを意味するが、ガーナ南部では、絞り染めだけでなく、木製のスタンプを用いてロウを布につけることで防染するタイプの染め

布もこのように呼ばれる。ガーナ国内で生産されているものが多く流通しており、独特の味のある風合いの布に染め上がるが、ントマよりも安く、これを用いた服はントマよりもカジュアルに着られている。

もうひとつ、忘れることができないのが葬儀の際に纏う喪服である。ガーナ南部では、葬儀には黒と赤の二色が用いられる。人々は一様に黒か赤の喪服を身に纏い、葬儀に出席するが、この喪服の多くも仕立屋によって縫われたものである。喪服に用いられる布は、ントマとは異なり、やや硬めの重量感のある化繊で織られていることが多く、ントマとは異なる柄がプリントされることが多い。このところ目立つのは柄の周囲にアッセム・アバ・フィエ（*Asem aba fie* 家に問題がやってきた）というチュイ語などがアルファベットで印字されているタイプの布である⁵⁾。

ブルキナファソの仕立屋について調査を行った遠藤は、西アフリカでは、布は富や地位の象徴するものであったと述べているが（遠藤 2013：42）、同様のことはガーナ南部でも当てはまる。例えば、婚姻に際して新郎に渡される婚資の一覧表（Marriage Items: Both Mother and Father Side: in Akan's Traditional Methods）には、「ノック（としてのカネ）*kokokoko*」や「犬がもうお前を噛まない（ためのカネ）*kraman nkawo*」と共に「ントマ」という項目が設定されており、2013年に私が調査したケースでは6ヤード（half piece）のントマ6枚が婚資に含まれていた。布がそれ自体で価値を持っていることは、女性たちの布の取り扱い方からも分かる。女性たちの多くは購入したり贈られたりして入手した布をすぐに服に仕立てるのではなく、服に仕立てないままの状態のントマを数枚、使用することもなく綺麗に折りたたんで旅行鞆のなかに入れて保管している。それをあえて仕立てるとするのは、それなりの決断を要する。仕立屋に依頼した結果、出来上がりが思うとおりでなかった場合にはすべてが台無しになる。縫い賃は布によって変化することもあるが、一般に、布の値段に比して少額である（例えば、女性もののツーピースの縫い賃は3米ドル程度である）。

一年のうち、仕立屋の仕事が最も集中するのが11月から1月にかけてのクリスマスシーズンである。この時期、多くの女性は自分へのプレゼントとばかりに「クリスマスの服 *burɔnya ataarie*」と呼ばれる服を一着仕立てる。そのため、人気の仕立屋は毎日深夜遅くまでミシンを回し、時に何日も連続で徹夜をして服を作り続けることになる。それでも期日までに仕立終わらないと判断した場合には、この時期の仕立屋は新たな依頼を断ることもある。その他の機会としてまず挙げられるのは葬儀である⁶⁾。先述のように、ガーナ南部では、葬儀には赤か黒の服を着て列席することが求められる。その際、死者の所属する母系親族集団のメンバーがお揃いの柄で新たに喪服を仕立てることがある。このようなときには、町中の仕立屋に依頼が急増することがある。また、ガーナでは、小学校・中学校・高校は学校ごとにそれぞれ制服を採用している。特に高校は、学校名の入ったオリジナルのプリント布で制服を作ることを新入生に要求することも多く、この制服の仕立も仕立屋の仕事のひとつである。これらの機会の他に、仕立屋には、年間を通して、仕立の依頼が細々と入ってくる。

3. プランカシのマダムたち

一人前の女性の仕立屋はマダムと呼ばれ、原則的にそれぞれがそれぞれの店舗を持つ。彼女たちは、他のマダムに100米ドル程度のお金を払って弟子入りし、約4年の修業期間を経て技術を身に着けた後で、一人前と認められる。仕立屋は、採寸から裁断、縫製、仕上げまでを一人で行う必要がある。顧客の希望と彼女たちが持ち込んだ布の大きさや柄に応じて、作成可能な服の形を提示したり、後で手直しが必要になるときの為にサイズに余裕を持たせたりと、柔軟な対応ができるようにならなければならない。仕立ての技術だけでなく、流行に通じていることや、顧客と円滑なコミュニケーションをとれることも仕立屋に要求される重要な資質である。弟子たちは、マダムのもとで修業をしながらこれらの技術を身に着ける。マダムは、弟子たちの技術の習得状況を見ながら、

表1 プランカシで活動している仕立屋たち（2019年8月現在）⁷⁾

	生年	開業年	学歴	弟子	既卒弟子	修業場所	師匠の現在の居住地	出身地	母の出身地	父の出身地
1	1964	1987	10年	3	10	クワエビビリム郡	ロンドン	プランカシ	プランカシ	プランカシ
2	1977	1999	中学卒	1	1	プランカシ	アクラ	プランカシ	セントラル州	アシャンティ州
3	1977	2000	中学卒	3	7	イースタン州	海外	プランカシ	プランカシ	プランカシ
4	1979	1999	中学卒	2	10	アクラ	アクラ	プランカシ	プランカシ	プランカシ
5	1979	1999	5年	6	7	プランカシ	クワエビビリム郡	プランカシ	ヴォルタ州	ヴォルタ州
6	1981	1999	中学卒	1	2	プランカシ	プランカシ	プランカシ	トーゴ	トーゴ
7	1982	2011	中学卒	4	0	プランカシ	プランカシ	イースタン州	ヴォルタ州	ヴォルタ州
8	1983	2005	中学卒	5	7	アクラ	アクラ	プランカシ	プランカシ	イースタン州
9	1983	2005	3年	0	0	ヴォルタ州	(専門学校)	プランカシ	プランカシ	プランカシ
10	1984	1999	4年	4	1	イースタン州	イースタン州	イースタン州	イースタン州	イースタン州
11	1985	2006	高校卒	4	1	プランカシ	プランカシ	プランカシ	プランカシ	プランカシ
12	1985	2009	中学卒	5	0	プランカシ	プランカシ	プランカシ	イースタン州	プランカシ
13	1987	2006	中学卒	0	0	プランカシ	プランカシ	トーゴ	トーゴ	トーゴ
14	1989	2009	中学卒	0	0	プランカシ	プランカシ	プランカシ	イースタン州	イースタン州
15	1990	2016	中学卒	0	0	プランカシ	プランカシ	セントラル州	セントラル州	セントラル州
16	1990	2017	中学卒	2	0	イースタン州	イースタン州	プランカシ	プランカシ	イースタン州
17	1991	2007	中学卒	13	1	プランカシ	アシャンティ州	プランカシ	トーゴ	トーゴ
18	1993	2016	中学卒	3	0	アクラ	アクラ	プランカシ	プランカシ	クワエビビリム郡
19	1993	2015	中学卒	3	0	クワエビビリム郡	クワエビビリム郡	クワエビビリム郡	クワエビビリム郡	ヴォルタ州
20	1993	2019	中学卒	0	0	プランカシ	プランカシ	イースタン州	イースタン州	イースタン州
21	1993	2018	中学卒	0	0	プランカシ／アクラ	プランカシ／アクラ	プランカシ	セントラル州	セントラル州
22	1996	2013	中学卒	0	0	アクラ	アクラ	プランカシ	イースタン州	イースタン州

任せられる仕事を任せることで、より多くの依頼を受けることが可能になる。

2019年8月現在、プランカシには少なくとも男女合わせて26人、24件の仕立屋が存在している。このうち20件が女主人が営む店であり、3件は男の仕立屋が経営している。残りの1件は、夫婦が共同で経営している。また、一人前のマダムと認められた後も、師匠の店で継続して仕事をしているマダムが1人いる。つまり、女性の仕立屋は22人存在している。この22人のマダムに対して、話を聞くことができただけでも52人の弟子が存在し、マダムの仕事を手伝いながら修業に励んでいる。ただし、仕立屋は比較的移動の激しい職種であり、また、店を出さずに自宅で仕事をしている者もあるため、正確な人数を把握することは困難である。

以下、本節では、2019年8月10日から9月6日にかけてプランカシ町で実施した現地調査で把握した限りの同町の仕立屋の実態について報告していく。

表1は、2019年8月にプランカシで活動していた22人のマダムのプロフィールをまとめたものである。プランカシでは、1964年生まれ（2019年8月現在55歳）から、1996年生まれ（同23歳）まで幅広い年齢層のマダムが営業している。その大多数は中学卒業以下の学歴しか持たず、高校卒業以上の学歴を持っている者は1人しかない。

マダムたちが現在抱えている弟子の数は0人から13人まで大きなばらつきがあり、一人前のマダムとなるまで育て上げた弟子の数にもばらつきがある。17番のマダムが多数の弟子を抱えている背

景には、彼女が夫とともに二人で仕立屋を営んでいることがある。また、マダムたちによると、弟子になっても休みがちとなり、途中で修業をあきらめる者もあるという。一人前のマダムと認められた後に仕立屋としての仕事を辞めて小売店の店主など他の商売を始める者もある。

マダムたちの多くは、自分の「出身地 *mekrom* (=私の町)」はプランカシだと回答しており、その数は全体の72.7%に当たる16人にのぼる。ただし、ここで言う「出身地」が何を意味するのかについては、慎重な検討を要する。プランカシの地主層を形成するアチム (Akyem) の人びとにとって、「出身地」とは自身の属する母系親族集団の出身地のことを指し、必ずしも生まれ育った場所を意味するわけではないからである。さらに複雑なのは、必ずしもマダムたちのすべてがアチムの人びとではなく、ファンティ (Fanti) やエヴェ (Ewe)、クロボ (Krobo) といった異なる出自を持つ人びとも含まれている。今回の調査では、チュイ語で出身地を訪ねているが、その意味するところについては踏み込まず、彼女たちが「出身地」として言及した場所を記載している。この点については、今後、それぞれのマダムに対してより詳細なライフヒストリーの聞き取りを行う予定である。なお、マダムたちのうち、父母のいずれかがプランカシ出身の者は9人 (40.9%) で、父母のいずれもがプランカシ出身ではないものの、本人はプランカシで育った者は7人 (31.8%) いた。この7人については、両親がプランカシに移住してきたと推定できる。

他方で、プランカシで活動していたマダムの下で修業した者は12人 (54.5%) で、クワエビリム郡を含めたイースタン州内の都市や首都のアクラで修業した後に、プランカシで開業しているケースが一定程度あることが分かる。

また、アクラで修業をした経験のある6人のマダムのうち、少なくとも3人 (8番、18番、21番) はプランカシ出身またはプランカシで営業していた経験のあるマダムの下で修業をしている。プランカシの外部で修業をする場合であっても、地縁に基づくネットワークが一定の役割を果たしている可能性を指摘することができる。

修業場所が特徴的なのは、9番のマダムである。彼女は、(おそらくは小児麻痺のために) 下半身に障がいを抱えている。救世軍が障がい者の職業支援のための専門学校をヴォルタ州で開いていることを知り、そこで3年間すごすことで技術を身につけたという。この点、他のマダムたちが徒弟制に必要な技術を身につけたのとは大きく異なっている。

マダムたちの師匠の現在の居住地として注目に値するのは、1番、2番、3番、5番であり、これらのマダムの師匠たちは、彼女たちが修行していた時代とは異なる場所で営業している。特に1番と3番のマダムの師匠は、ロンドンと (詳細な場所は不明だが) 海外で営業しており、現時点で確証は得られていないものの、手に職をつけた仕立屋たちがその技能を活かして移住していた可能性がある。現在、プランカシで営業しているマダムたちはどちらかというと苦しい生活をしており、また、これまでの調査生活のなかで海外に移住した仕立屋の話は私は聞いたことがなかったので、この点は驚きであった⁸⁾。

マダムたちのうち、両親のいずれかが仕立屋をしていた者はいない。他方で、3番のマダムの双子の姉は同じく仕立屋のマダムで、プランカシで営業していたこともあるが現在はアクラに店を出している。いま活動している仕立屋の子どもたちが仕立屋の仕事や修行をしているという話は聞かない。仕立屋の子どもが仕立屋にならない背景には、それほど多くの収入を得られないことが理由のひとつにあるようにも思えるが、明確な聞き取り調査を行ったわけではないので、この点についても今後の課題としたい。

4. マダムの弟子たち

表2は、2019年8月にプランカシで話を聞くことのできたマダムの弟子52人のプロフィールをまとめたものである。番号の最初の数字は表1のマダムの番号を示しており、二番目の番号はマダムの弟子たちをそれぞれ識別するために用いている。つまり、弟子3-2は、表1の3番のマダムの2人の弟子のうちの1人であることを示している。

表2 プランカシで修業している弟子たち（2019年8月現在）

番号	年齢	修業開始日	学歴	中学校所在地	母の出身地	父の出身地	子ども	母	父
1-1	18	2019年5月20日	中学卒	クマシ	イースタン州	プランカシ	0		
1-2	19	2019年5月	中学卒	ヴォルタ州	トーゴ	イースタン州	0		
1-3	29	2011年	中学卒	プランカシ	セントラル州	セントラル州	3		
2-1	20	2017年5月24日	中学卒	クワエビビリム郡	ヴォルタ州	ヴォルタ州	0		
3-1	22	2018年12月4日	中学2年	プランカシ	プランカシ	プランカシ	2		
3-2	18	2018年4月24日	中学卒	プランカシ	イースタン州	イースタン州	0		
4-1	19	2016年10月20日	中学卒	イースタン州	プランカシ	イースタン州	0		
4-2	22	(不明)	中学卒	プランカシ	クワエビビリム郡	プランカシ	0		
5-1	25	2017年8月	中学2年	プランカシ	セントラル州	セントラル州	1		死別
5-2	18	2019年3月5日	中学卒	プランカシ	セントラル州	トーゴ	0		
5-3	25	2017年4月25日	中学卒	グレーターアクラ州	グレーターアクラ州	グレーターアクラ州	0		
5-4	22	2018年12月	中学卒	プランカシ	プランカシ	プランカシ	0		
5-5	19	2018年8月28日	中学卒	プランカシ	クワエビビリム郡	セントラル州	0		
5-6	23	そろそろ4年	中学2年	プランカシ	イースタン州	イースタン州	0		
6-1	20	2018年4月	中学2年	プランカシ	トーゴ	プランカシ	1		
7-1	22	2016年1月12日	中学卒	プランカシ	イースタン州	(不明)	0	死別	
7-2	21	2018年5月3日	中学卒	セントラル州	アシャンティ州	アシャンティ州	0		
7-3	18	2018年10月8日	中学卒	クワエビビリム郡	クワエビビリム郡	アシャンティ州	0		
7-4	28	2019年8月	中学卒	プランカシ	セントラル州	イースタン州	0		
8-1	26	2017年11月23日	中学卒	プランカシ	クワエビビリム郡	プランカシ	1		
8-2	22	2019年3月15日	高校卒	プランカシ	セントラル州	プランカシ	1		死別
8-3	24	(不明)	中学卒	プランカシ	イースタン州	プランカシ	1		
8-4	22	2017年6月	小学卒	イースタン州	クワエビビリム郡	クワエビビリム郡	1	死別	
8-5	29	2018年10月	中学卒	プランカシ	クワエビビリム郡	クワエビビリム郡	3	死別	死別
10-1	27	2017年10月	中学1年 (学費払えず)	プランカシ	セントラル州	セントラル州	2		
10-2	25	2018年4月	中学卒	プランカシ	セントラル州	セントラル州	1		死別
10-3	18	2017年12月	中学卒	プランカシ	セントラル州	イースタン州	0	死別	
11-1	20	2016年6月8日	中学卒	プランカシ	プランカシ	プランカシ	0		
11-2	26	2016年10月14日	中学卒	プランカシ	イースタン州	プランカシ	0		
11-3	21	2018年12月8日	中学卒	プランカシ	プランカシ	プランカシ	0		
12-1	22	2016年5月1日	中学卒	プランカシ	イースタン州	プランカシ	0		
12-2	23	2018年4月3日	高校1年	プランカシ	プランカシ	(不明)	0		死別
12-3	28	2018年4月	中学卒	プランカシ	プランカシ	イースタン州	1		
12-4	20	2017年5月13日	中学卒	プランカシ	ヴォルタ州	プランカシ	0		
12-5	25	2018年1月23日	中学卒	プランカシ	イースタン州	プランカシ	1	死別	
16-1	22	2019年6月	中学卒	プランカシ	プランカシ	プランカシ	0		
16-2	18	2019年7月	中学卒	プランカシ	プランカシ	プランカシ	0		
17-1	21	2017年2月21日	中学卒	プランカシ	プランカシ	(不明)	0		死別
17-2	22	2019年6月4日	中学卒	プランカシ	プランカシ	セントラル州	1		
17-3	23	2019年8月19日	高校卒	プランカシ	プランカシ	ウエスタン州	1		
17-4	21	2018年2月19日	中学卒	プランカシ	(不明)	セントラル州	1	死別	
17-5	17	2018年4月10日	中学卒	プランカシ	プランカシ	ウエスタン州	0	死別	
17-6	23	2019年6月16日	中学卒	プランカシ	セントラル州	セントラル州	2		
17-7	18	2018年5月14日	中学卒	ヴォルタ州	ヴォルタ州	トーゴ	0	病気	死別

弟子たちの年齢は17歳から29歳までであり、平均年齢は22.2歳である。このうち22歳が12人と最も多くなっており、24歳以下が75%を占めている。マダム同様、学歴はそれほど高くなく、高校卒業以上の学歴の持つ者は全体の9.6%に当たる5人となっている。

今回の調査を通じて分かった新しい発見のひとつに、弟子たちが自分がいつ修業を開始したのかを正確に記憶しているということがある。表2には「いつ修業を始めたのか⁹⁾」という質問に対する彼女たちの回答をそのまま記載している。よく覚えていなかったり、アバウトな回答をしている者も、月単位での回答をしてくれた者も多いが、全体の63.4%に当たる33人は日付まで正確に回答してくれた。この背景には、一人前のマダムとして認められるためには、4年の修業期間が必要であると定められている事があるように思える¹⁰⁾。他方で、例えば修業期間中に妊娠・出産を経験するなどして、一時的に修業を中断するケースもあり、そのような場合には、修業を始めた正確な日付の重要性は相対的に低下すると考えられる。

先述のように、プランカシの地主層を形成するアチムの人びとにとって、「出身地」とは自身の属する母系親族集団の出身地のことを指す。世代がばらけているマダムと異なり弟子たちは比較的近い世代に属しているが、母の出身地と父の出身地のばらつきを見ても分かるように、この世代の住人たちは親世代の移住の影響もあり必ずしも「出身地」で生まれ育っているわけでない。そのため、弟子たちについては、原則的に出身地の他に卒業していた／通学していた中学校の所在地を尋ね、表に示している。ただし、中学校に通った経験のない8-4については、小学校の所在地を記している。表2に示したように、全体の82.7%に当たる43人がプランカシの中学校に通っている。このことから、この町で育った者がその延長線上で修業しているケースが多いことが分かる。

なお、プランカシの外で中学校に通っていた弟子たちがわざわざプランカシで修業している理由としては、地元よりもプランカシの方が仕立屋が多いという理由（2-1）や、親元を離れて一人暮らしをしたかったという理由（7-3）、親族を頼っ

てきたケース（17-7）や、中学に通う際に親元を離れて親族を頼っていたケース（1-1、1-2、4-1、5-3、7-2、8-4）が確認できた。

その他に目に付く弟子たちの特徴としては、子どもを育てている者が19人（36.5%）いることや、父母のいずれかと死別している者が15人（28.8%）いることが挙げられる。これらの数字だけから厳密な分析を行うことはできない¹¹⁾ものの、私は、これらの数字が高校進学のための有無と関連していると考えている。ガーナでは、妊娠している生徒は高校に通うことができず、一時的に休学をするか、その後復帰することなくそのまま退学をするという選択を取らなければならない。あるいは、プランカシには高校が存在しないことから、高校に進学しようと思えば、高校のある町に住む親族の下に身を寄せて通うか高校に併設されている寮に入らなければならない。そのため、高校に通うためには中学までとは文字通り桁違いの学費が必要になる。プランカシでは、高校を卒業することは多くの子どもたちにとっての現実的な選択肢と考えられているが、例えば親の出身地がどこか分からないほど以前に死別している場合などは、一人親が高校卒業までの学費を工面するのはそれなりに難しいことであるように思える。実際、今回実施したような簡易的な悉皆調査で個別的に立ち入った事情を十全に把握することは困難であるものの、仕立屋を目指している理由として、服を作るという職業へのあこがれや関心を明確に語ってくれたのは2人であり、むしろ、仕事一般によく使用される「助けになるから *Ebua me*（＝稼げるから）」という表現や、よりあけすけに、高校に行くためのお金が家になかった自分にとって他に選択肢がなかったという趣旨や、親に修行するように言われたという趣旨の回答を多く聞くことができた。

先述のように、この点については、現時点では確定的な結論を導くことはできないものの、どのような層の女性たちがどのような経緯で仕立屋を目指すことになったのかは、ガーナ南部における職業としての仕立屋の特性を理解するうえで、決定的に重要な論点になりうる。

5. おわりに

以上のように、本稿では、2019年8月現在のプランカシにおけるマダムと弟子たちについて概括的に記述してきた。速報的な調査報告という文章の性質上、それほど多くのことを確信をもって明らかにできたわけではないが、この限定的な記述からでもいくつかのことが分かる。すなわち、(1) 仕立屋のマダムと弟子たちの多くは高校以上の学歴を持たず、何らかの理由で高校卒業まで学校に通えなかった女性たちにとって、仕立屋という職業が就労の機会を提供している可能性が高いこと、(2) マダムも弟子も何らかの形でこの町とのつながりを持っていることが多いこと、(3) 他方で、特に弟子たちの親世代の出身地は非常に多様であり、当該地域の人々の地理的な移動性が高いことが窺える、などである。

他方で、(1) マダムたちの出身地をどのように聞き取るのかという点や、(2) 仕立屋の子どもが仕立屋を目指している事例が存在しない点、(3) 仕立屋を目指す者たちの出産経験や父母のいずれかと死別している数をどのように理解すればいいのかなど、調査の過程で重要な論点として浮上してきたものの、本稿では十分に解決できなかった点も多数残されている。

さらに、今回の調査からは、プランカシの中学校を卒業した者で、現在、プランカシの外部で仕立屋の修業をしている者については対象に収めることができていない。現時点でそのような弟子たちがどれくらいのボリュームで存在しているのかは把握できていないが、今回調査を実施したような農村部から、修業のために都市部に出ていっている者もあるかもしれない。また、現在、プランカシで修業をしている弟子たちのなかには、より良い収入が見込めると彼女たちが考えている都市部での出店を夢見ている者もある。同様に、今回の調査の対象から外れている者として、仕立屋になるべくマダムの元に弟子入りしたものの途中で修業を断念した者や、修業を終えて一人前のマダムとして認められたにもかかわらず仕立屋として身をたてることを断念した者がある。このようなドロップアウト組に注目することは、ガーナ南部

における仕立屋について理解するうえで必要不可欠な視点を提供してくれると考えている。

これらの不足点については、今後、個々のマダムや弟子たちにより詳細なライフヒストリーの聞き取り調査を実施したり、仕立屋になることや仕立屋であることを諦めた者たちに調査対象を拡大したり、農村部だけでなく都市部におけるマダムと弟子たちの実態と比較したりすることで、より明確な理解へとたどり着きたいと考えている。

謝辞

本稿のもとになった調査は、龍谷大学社会科学研究所からの助成によって可能になった。その際、同研究所の落合雄彦教授には大変お世話になった。また、プランカシでの調査は、マダムと弟子たちの好意と友情に全面的に基づいている。ここに記して、謝意を示したい。

注

- 1) チュイ語でカバニスリットと呼ばれているものは、おそらく、英語の cover and slit に由来すると思われる。ただし、スカートに文字通りスリットがいられることは稀である。
- 2) 客が十分な長さの布を持ち込んだ場合、ツーピースに加えて、腰布とドゥク (duku) と呼ばれる頭に巻くための布も揃えることができる。これらの4点セットは、特に年配の女性たちにとって正装として扱われる。腰布は、背中に子どもを背負う際にも使われるが、布の端に紙幣を包んで結んで財布代わりに用いられることも多い。
- 3) ガーナで出版されている有名なファッション雑誌として、クロビア・ファッションマガジン (Krobia Fashion Magazine) とアデシエ (ADEHYIE) の二つがある。2019年8月現在、前者は14号まで、後者は10号まで発行されているが、この他に特集号として、子供用、男性用、ケンテ特集号などもそれぞれ発行されている。これらのファッション雑誌は、もともとポスターを作成していた業者が作成しているようである。
- 4) 人々は、着ている服の柄を用いてコミュニケーションを取っているという報告もある (Domowitz 1992)。
- 5) ここに収録した布についての説明は、浜田 (2020) にも一部掲載している。そちらには、写真を掲載しているので、必要に応じて参照されたい。
- 6) ガーナ南部の12月の雰囲気については浜田 (2019b) を、葬儀については浜田 (2019a) をそれぞれ参照されたい。
- 7) 修業場所や出身地などの地名については、煩雑さを避けるため、プランカシ、プランカシ以外のクワ

エビビリム郡、クワエビビリム郡以外のイースタン州、アクラとその他の州、国外が区別できるように大まかに分類して記載している。

- 8) 対照的に、個人的に面識のあるブランカシで修業した2人の髪結いが南アフリカに出稼ぎに行っていることを確認している。
- 9) ただし、ここで用いたチュイ語の表現をより正確に訳出すると、「どの日に就業を始めたのか」と、日付を問う疑問文になり、私自身ほとんど無意識のうちに月や年を問う疑問文を用いていなかったことは付記しておく。
- 10) 4年の修業期間を終えた後、弟子たちは自分が一人前のマダムとなったことを人々に知らせ、また、独立して店を出すための開店資金を集めるための機会として、「パーティー」と呼ばれるイベントを主催し、実施する。このパーティーは、年間を通じて開催することが可能だが、人々が出身地に戻る多くの多いクリスマスやイースターの時期までまって開催する者も多い（浜田 2019b; Hamada 2020）。4年の修業期間を終えてからパーティーを開催するまでのあいだ、マダムの元で継続して仕事を手伝う者も少なくない。そのような場合、マダムは弟子に対し折に触れて謝意を示す。なお、このパーティーを通じて、新しいマダムのどのような能力が人々に表現されているのかについては、別稿を用意する予定である。
- 11) 最低でも、同年代の高校を卒業した者について同様の調査を行い、その数字を比較する必要があるだろう。

参考文献

- Domowiz, S. 1992 Wearing Proverb: Anyi Names for Printed Factory Cloth. *African Arts* 25 (3): 82-87.
- 遠藤聡子 2013 『パーニユの文化誌：現代西アフリカ女性のファッションが語る独自性』、昭和堂。
- 浜田明範 2019a 「死者への貢献の集め方：ガーナ南部における葬儀と集団の生成」、森明子編、『ケアが生まれる場：他者とともに生きる社会のために』pp. 109-129、ナカニシヤ出版。
- 2019b 「12月のブランカシ：ガーナ南部において集める／集まるということ」、浜田明範編、『再分配のエスノグラフィ：経済・統治・社会的なもの』pp. 205-234、悠書館。
- 2020 「スーツケースのなかの世界：ガーナ南部における女性の財とファッション」、『季刊民族学』171号 pp. 95-103。
- Hamada, A. 2020 'Collecting Money Through Play: Celebration Parties as an Economic Process in Southern Ghana'. In Yaw Ofosu-Kusi and Motoji Matsuda (eds.) *The Challenge of African Potentials: Conviviality, Informality and Futurity*, pp. 43-62. Bamenda: Langaa.
- 国立民族学博物館（編）2006 『更紗今昔物語 — ジャ

ワから世界へ』、千里文化財団。

Ratteray, R. S. (ed.) 1927 *Religion and Art in Ashanti*, Oxford University Press.